

第66回 静岡手外科・マイクロサージャリー研究会

日 時：平成31年3月23日（土）15:00～18:00

場 所： 静岡県総合研修所 もくせい会館
静岡市葵区鷹匠3-6-1
TEL 054-245-1595



会 費： 参 加 費 1,000円
： 日整会申請単位 1,000円
日手会申請単位 1,000円
日整会・日手会 同時申請 1,000円

当番世話人：静岡市立清水病院 整形外科 河野 友祐

E-mail : yusuke-kawano@royal.ocn.ne.jp

日本整形外科学会教育研修単位 1単位取得
日本手外科学会教育研修単位 1単位取得

共催 静岡手外科・マイクロサージャリー研究会
エーザイ株式会社

第41回「静岡ハンドセラピー懇話会」ご案内

静岡県下のハンドセラピストの交流と発展を主旨とした「第41回静岡ハンドセラピー懇話会」を下記の概要で開催いたします。この会は、静岡手外科・マイクロサージャリー研究会のご理解とご協力を賜り運営しております。

奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

平成31年2月

代表 聖隷浜松病院 作業療法士 原田 康江

日 時：平成31年3月23日（土） 14時～14時40分

会 場：静岡県総合研修所「もくせい会館」

静岡市葵区鷹匠 3-4-1 もくせい会館 2F 第一会議室 TEL 054-245-1595

参加費：静岡手外科・マイクロサージャリー研究会への参加を条件とします。

（静岡手外科・マイクロサージャリー研究会：参加費1,000円）

内 容： 司会 静岡済生会総合病院 リハビリテーション科作業療法士 中村哲朗
症例検討1.

「橈骨遠位端骨折に尺骨神経麻痺を呈した症例」

聖隷浜松病院 リハビリテーション部 作業療法士

●齋藤 郁

症例検討2.

「精神発達遅滞を持成人の左上腕骨遠位端骨折治療の経験」

静岡済生会総合病院 リハビリテーション科 作業療法士

●外木 克樹

ミニレクチャー

「橈骨遠位端骨折の基礎」

聖隷浜松病院 リハビリテーション部 作業療法士

●松下 明日香

15時～開催の「静岡手外科・マイクロサージャリー研究会」に引き続きご参加ください。

詳しいお問い合わせは、聖隷浜松病院 リハビリテーション部 原田 康江まで

TEL 053-474-5966

FAX 053-471-6050

<プログラム>

一般演題 (I)

15:00～15:40

座長 静岡市立清水病院 整形外科 河野友祐

(1) 「手掌軟部に発生した良性線維性組織球腫の1例」

静岡済生会総合病院 整形外科

●岩野 壮栄、矢崎 尚哉、田中 宏昌、伊東 翼、
山賀 崇

掌軟部に発生した非常に稀な腫瘍の1症例を経験したので報告する。

症例は74歳男性、4年前より右手掌中央部に腫瘤を自覚、徐々に拡大してきたため当院受診された。

母指球から第1指間に腫瘤を触れ、手掌中央部に渡っていた。MRIでは第1指間から示指中指環指深部まで広がる境界明瞭、T1等信号、T2高信号、T2STIR高信号

の占拠性病変を認めた。腋窩ブロック下に摘出術施行、腫瘍は被膜に覆われていた。病理組織学的所見では紡錘形細胞の増生と多数の毛細血管の増生よりなる充実性の腫瘍で、悪性所見は認めず、免疫染色の結果、筋、神経、血管系の腫瘍は否定的で、組織球混在を多数認めたため、良性線維性組織球腫と診断された。良性線維性組織球腫は皮下軟部、骨に発生する稀な腫瘍であるが、手掌軟部に発生した報告はほとんどない。再発やごく稀に転移を生じると報告されているが、術後1年で再発は認めていない。今後も経過観察の予定である。

(2) 「外傷性指節骨骨欠損に対し

Masquelet 法により再建を行った 1 例抄録」

静岡市立静岡病院 整形外科

JA 静岡厚生連遠州病院 整形外科

●澤田智一¹⁾、森岡聡¹⁾、佐野倫生¹⁾、黒川敬史²⁾

Masquelet 法は主に下肢長管骨骨欠損に対する再建方法であり、指節骨における報告は少ない。我々は外傷により生じた指節骨骨欠損に対し、Masquelet 法により骨再建を行った症例を経験したので報告する。

【症例】63 歳男性。電動のこぎりに右手が巻き込まれて受傷。示指は中節骨遠位に約 10mm の背側を中心とした骨欠損を、中指は中節骨近位に約 25mm の大きな骨欠損を認めた。受傷直後は骨長を保つように示指・中指ともに指先から髓内鋼線固定を行った。受傷後 3 週で中指骨欠損に 1st stage として骨セメントを留置、1 か月後に 2nd stage としてセメントを除去し、同部に腸骨より海綿骨移植を行った。示指骨欠損については同時に通常の骨移植と固定を行った。術後 3 か月で示・中指ともに骨癒合が得られ、術後半年で残存関節の可動域は良好で復職している。

【考察】手指においても軟部組織の状態が保たれ、大きな骨欠損が生じている症例に対して Masquelet 法は有用な方法であると考えた。

(3) 「状骨偽関節に対する腸骨移植術における成績不良因子の検討」

静岡市立清水病院 整形外科

●萩原 健、河野 友祐、田中 信行、中村 匠
板橋 正 武田 太樹 古川 満、
菊池 謙太郎 奥山 邦昌

【目的】舟状骨偽関節に対する腸骨移植を用いた骨接合術は良好な成績が報告されているが、文献的に 10-20%の癒合不全が存在する。今回我々は腸骨移植術の骨癒合につき評価し、成績不良因子の解析を行った。

【対象と方法】2001年から2017年に舟状骨偽関節に対し腸骨移植術を行い1年以上観察可能であった58例を対象とした。手術時年齢は平均28.3歳(12-63)、女性7例、男性51例、経過観察期間は平均21.0ヵ月であった。受傷原因はスポーツ外傷29例、交通事故7例、転倒6例、その他16例であった。手術は全例腸骨移植に加えてAcutrak screwとKirshner wireによる内固定を行った。術後1年以内に骨癒合を認めた群を癒合群、認めなかった群を非癒合群と分類し、年齢、性別、喫煙、術前待機期間、Fillan-Herbert分類、骨折部位、DISI変形の指標としてscapho-lunate angle, radio-lunate angle, 術前MRIにおける近位骨片の輝度変化(T1強調画像での低信号)を成績関連因子として単変量解析を行った。

【結果】骨癒合は47例(81%)に得られ、非骨癒合群は11例(19%)であった。単変量解析では術前MRI所見において2群間で有意差を認めた($P < 0.05$)。術前待機期間は骨癒合群では平均20.8ヶ月、非癒合群では平均29.1ヶ月で、有意差はなかったが、非癒合群で長い傾向を認めた。

【結論】

舟状骨偽関節に対して腸骨移植術を施行し、他の報告と同等の骨癒合率が得られた。

舟状骨偽関節に対する腸骨移植術において、術前MRIでの近位骨片のT1強調画像低信号の所見が術後の骨癒合に影響すると考えられた。

(4) 「重症手根管症候群に対する母指対立再建術の術後成績」

藤枝市立総合病院 整形外科

●鈴木重哉

当院では2017年1月から母指対立障害を有する重症手根管症候群に対して超音波ガイド下選択的神経ブロックや局所浸潤麻酔を用いて自動運動下に対立再建術を行っている。短母指外転筋 (APB) の徒手筋力検査 (MMT) が0-1であった36例中、患者の希望があった13例に対して対立再建術を行った。全例、木森法による手術を予定し、術中に短母指伸筋 (EPB) の欠損が判明した1例のみCamitz法をおこなった。手関節軽度掌屈位、母指最大掌側外転位で移行腱の仮縫合を行った後自動運動を行い、その様子で適宜腱の緊張を調節した。術中の長掌筋 (PL) の滑走の状況と、術後の対立可能範囲 (示指～小指) の比較、母指球萎縮の回復を検討したので報告する。

ワンポイントレッスン

15:40～15:55

テーマ

「母指CM関節固定術は
母指指尖部の動きを約3割に減少させる」

静岡市立清水病院 整形外科 河野 友祐

情報提供

15:55～16:05

「疼痛治療剤 リリカについて」 エーザイ株式会社

【休憩】 16:05 ～ 16:15

座長：静岡市立清水病院 整形外科 萩原 健

- (5) 「掌側ロックプレート施行時の
橈骨遠位端骨折背側転位に対する intrafocal pinning の有用性」

浜松赤十字病院 整形外科

●萩原弘晃 牧野絵巳

【背景】掌側ロックプレート(VLP)固定を行う際、背側転位に対する整復法の一つとして intrafocal pinning がある。

【目的】我々は VLP 固定の際の intrafocal pinning の有用性を、健側と比較して検討した。

【対象と方法】2 橈骨遠位端骨折背屈変形に対して VLP 固定を行った 45 例 45 手を対象とした。骨折型は A0 分類 A3：11、C2：9、C3：25 例であった。全例に対して術中に背側、橈側より 1.5mm の鋼線で intrafocal pinning を行い整復後に VLP 固定した。単純 X 線画像計測値として、radial shortening (RS)、volar tilt (VT)、radial inclination (RI)を、受傷時、健側、最終観察時で測定して比較した。

【結果】最終観察時 RS は 0.4mm、最終観察時 VT は 10.2 度、最終観察時 RI は 23.1 度で、いずれも受傷時に比べて有意に改善し、健側と有意差はなく、良好な整復が得られていた。骨折型による差はなかった。

【考察】今回いずれの測定値も受傷時より優位に改善し、健側と差はなく、骨折型による差も認めなかった。術中 intrafocal pinning を併用した VLP 固定は、背側転位型橈骨遠位端骨折の治療に有用と考えた。

(6) 「エコーにてポータルを作成する手根管外側アプローチ2ポータル鏡視下手根管開放術」

静岡県立総合病院 整形外科

●中山 憲

【目的】鏡視下手根管開放術でのポータルは皮膚のランドマーク (LM) を指標に作成している。しかし、手根管の走行、反回枝の分岐部等は LM から逸脱する場合があります、術後合併症に繋がると考えられる。我々は、執刀前にエコーで正中神経の走行、反回枝の分岐部を同定し、それに合わせてポータル (patient specific portal : PSP) を作成したうえで、手根管外側からアプローチする2ポータル鏡視下手根管開放術 (2P-ECTR-0) を行っている。その小経験を報告する。

【方法】症例は16手。男性5手、女性11手。平均年齢71.3歳 (48～87歳)。執刀前にエコーで正中神経の走行 (手根管) と反回枝の分岐点をマーキングし、近位は長掌筋上に、遠位は手根管出口の尺側縁にポータルを作成し、2P-ECTR-0 を行った。

【結論】エコーによる PSP は、ECTR 手技では特に有用と考えられる。

(7) 「爪母が残存した爪床損傷に対しつけ爪を用いて治療した1例」

静岡市立清水病院 整形外科

●河野友祐、萩原健、中村匠、田中信行、
武田太樹、板橋正、古川満、
菊池謙太郎、奥山邦昌

【はじめに】今回われわれは、爪母が残存した爪床損傷の症例につけ爪を用いて治療した症例を経験したので報告する。

【症例】21歳男性、冷凍マグロを切断する機械で誤って左母指指尖部を損傷し、近医を受診した。受診時に爪甲近位5mm程度が残存した状態で、爪甲と爪床遠位は欠損していた。断端形成が必要と言われ、当院を紹介受診した。爪床の修復は行わず肉芽形成を促すため数日はガーゼで保護し、その後からABS樹脂製のつけ爪を残存した爪甲に縫合する形で爪床を保護した。最初は週に1度、その後は隔週での通院で治療を継続したところ、爪甲とともにつけ爪も前進し大きな変形無く治癒した。

【考察】爪甲欠損を伴う爪床損傷の治療については爪床修復と爪甲移植などを行った報告や、爪床修復後に非固着ガーゼや人工真皮、爪甲代用物などを持ちいて治療した報告もある。いずれも良好な成績が報告されているが、手術や頻繁な創部の観察を要するため、患者本人にも負担を強いることがある。今回われわれが行った方法は爪甲とともにつけ爪が前進し頻回の創部観察が必要ないため、有用な方法であると思われた。

【休憩】 16:45 ~ 17:00

招待講演

17:00～18:00

座長 静岡市立清水病院 整形外科 河野 友祐

「手指外傷における私の治療指針」

荻窪病院 整形外科

手外科センター長 岡崎 真人 先生

経歴および業績

氏名 おかざき まさと
岡崎 真人

機関名 荻窪病院 整形外科 手外科センター

<学所属歴>

平成元年 慶應義塾高等学校 卒業

平成7年 慶應義塾大学医学部医学科 卒業

<職歴>

平成7年 慶應義塾大学医学科 整形外科教室 入局

昭和8年 大田原赤十字病院 整形外科

平成9年 済生会横浜市南部病院 整形外科

平成10年 浦和市立病院 整形外科

平成11年 北里研究所病院 整形外科

平成12年 慶應義塾大学 整形外科 チーフレジデント

平成13年 荻窪病院 整形外科

平成17年 Royal North Shore Hospital, Department of
Hand Surgery and Peripheral Nerve Surgery

(Dr. M. Tonkin, Sydney, Australia) Clinical fellow

平成18年 平塚市民病院 整形外科

平成20年 慶應義塾大学 整形外科

助教・上肢班スタッフ

平成23年 荻窪病院 整形外科 医長

平成26年 荻窪病院 手外科センター長

<学会関連>

日本整形外科学会会員、専門医

日本手外科学会会員、専門医、代議員

日本肘関節学会会員、評議員

日本骨折治療学会会員

日本マイクロサージャリー学会会員

東日本整形災害外科学会会員

東日本手外科研究会会員

IBRA (International Bone Research Association) 会員